



# KOYAALA 通信



Sept. 1  
2012

「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤアラがコヤアラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日(予定) 1月1日、4月1日、7月1日、10月1日



## 第1回国際コスタ・ブラヴァ人形フェア

# IN DOLLS report 写真/文 西村 FELIZ

2012年8月9日～8月12日 Palau Firal, Sant Antoni Calonge, Spain



### ★人も人形も、スペインまでの長い道のり★

今年8月にスペインで開かれた本格的な国際人形展「IN DOLLS」にチーム・コヤアラは招待を受け、自分はチーム代表の大役を担って展示に向かった。会場はバルセロナからバスで2時間のリゾート地、サンアントニ・デ・カロンジェ市にある。

かつて中南米を放浪したときに身についたスペイン語。日本で使うことはほぼ皆無。何故、もっと有用な英語を学ばなかったのか?と思うこと度々だったが、今回、日本の作品をしっかりとスペインや世界の人々に紹介する——そのために自分のスペイン語が役立つ時がきたのである。

激安航空券を片手に、東京の自宅から片道36時間もかかるイバラの道だが、近くに地中海を望む美しい浜辺が続くこの地域は、夏のシーズンともなるとスペインはもとより近隣諸国からも多くの観光客が訪れ、人口が通常の4倍にも増えるという、ヨーロッパでも有数のビーチリゾート地である。そんな地で行なわれる今回の企画は、ロシアの人形作家達の支援を受け、現地の主催者であるアナスタシアさんが中心となって開催したもの。その呼びかけに呼応した出品作家は多く、ドイツ、スペイン、フランス、オランダ、イタリア、日本、ラトヴィア、ロシア、スイスの9カ国と2つの人形団体から計125人の作家が参加し、我が国から参加するのは、秋山まほこ、生駒みつ枝、大谷博子、川崎裕子、月光社、篠原七生、立川好江、高橋富子、高橋操、長岡哲生、中島蓉子、長谷川裕子、松田珠江と自分を含む14名。スペインにおける初の国際人形展で、日本ここにありを存分に示せそうな個性的な面々である。

搬入日、現地スタッフにより、日本より郵送されていた日本作家達の作品が会場へ次々と搬入される。日本からスペインへの物品の発送は、近年のスペインの経済状況の悪化から関税が高額で、その上に税関で留まる時間が長く、発送物が返送されてしまうことさえある。しかし今回はその事情に備えて周到に準備したこともあって、作品は全て搬入日前に無事に現地に到着した。とりあえずは一安心。しかし、案じていた破損事故が4件。修理して展示したが、秋山まほこさんの作品については修復不能で、自分も主催者も痛恨の思いで展示を断念しなければならなかった。



### ★賑やかでパワフルな出品者たち★

長岡哲生さんの写真を含む In Dolls のポスターは、町中各所の目立つところに掲示されていた。主催者はチーム・コヤアラを展示でも宣伝でも目立つように扱ったので、テレビや現地での報道でも何度か取り上げられた。出品作品のなかで3人しか受賞しない In Dolls 賞を長岡哲生さんが受賞した。

チーム・コヤアラの日本ブースはどの作家の作品も好評を博したが、海外作家のブースも同様に、とても華やかで充実していた。

ブリキッド・デバル(イタリア)、エロイーズ(フランス)、シウ・リン・ワン(ドイツ)等欧州勢はきめ細かく質の高い作品を展示。日本で開催された世界創作人形展でお馴染みのオランダ勢イヴォンヌ・フリプシ、ゲルダ・S・ライスダイク、等も新たなコンセプトの人形をこの日の為に制作し、会場をにぎわしていた。

ロシア人作家達は作品も勿論だが、休憩時間の度に浜辺に行き、日に日に、色白の作家達の肌が小麦色に変わっていった。そんなシミソバカスの類いはまるで気にしない大胆さとは裏腹の繊細な人形は各国作家達の間でも評判で、今秋にモスクワで開催される「Art of the Doll 3」への期待も高まっていた。

主催者もスペイン初の試みとしては来場者も多く、手応えを感じているようであった。今回の反省点を踏まえ、早くも次回開催の準備に取りかかるようだ。新たなパビリオン会場も絶賛建設中とのこと。スペインといえば、「仕事はまあ、死なない程度に適当にやればいじゃない。それよりも大切なのは今日の昼飯とその後の昼寝と夜の情熱」といった感じでのんびりとした国のイメージがあったが、実際に訪れてみると賢く有能な人がとても多かった。展示終了したばかりの今から、更なる努力を積み重ねる覚悟をした彼等が、いったい次はどのような IN DOLLS を作るのか? 次回もとても楽しみだ。



— 展示を終え、日本の作品が世界に伝わるお手伝いが少しでも出来ていることを願うばかりです。

主催者である INDOLLS のアナスタシアさん並びに現場で動いてくださったラリッサさん、そして日本の出品者の皆様の暖かいご協力に大変感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

西村 FELIZ

#### ■ 現地での報道

TVで放映された日本の作品と主催者等のインタビュー

動画 <http://www.costabradigital.cat/index.php>

現地のニュースサイトで報じられた日本の作品

<http://www.gironanoticias.com>

<http://www.aragirona.cat>

現地のアートサイトで報じられた日本の作品

<http://www.bonart.cat>



川崎裕子さんの「夢草紙」「慕情」（上左2点）の日本的な表情のあてやかさ、鮮やかな色使いの着物、素足の美しさに、じっくりと細部まで作品を鑑賞する人たちは繊細な技術を讀んでました。生々しいまでに日本人の表情を表現している篠原七生さんの「白いエプロン」「さつき」（上右2点）は外国人にとってはインパクトがとても大きい模様。素材が石塑であるということに、作り手からの評価もとても高い作品でした。



高橋操さんは自分の先生ですが、その独特のユーモア、発想力に敵わないなあという気持ちになります（上左・中央作品）。今回も「眉毛を描くのを失敗しているその瞬間の人形」（「暫」）という面白さに、現地のTV局をはじめ多くのお客さんが注目、お客さんが多数来場し、日本の人形ブース、引いては展覧会全体の広告塔になり、記念写真を一緒に撮影したい列が出来たのがなんだか凄かったです！生駒みつ枝さんが描く日本の中世の光景「おおらかに」（上右手前作品）を、現地の人々が興味深そうに見ていたのが印象的でした。猫や子供も注目の的で「ガティータ（猫ちゃん）」がいるよ！と、子供達が嬉しそうに両親を呼び止めてました。



立川好江さんの作品（上手前3作品）は布の人形に筆や鉛筆を使って顔を描くという日本の中でも類を見ない珍しい技法。その制作法等について各国の作家達から多くの質問を受けました。松田珠江さんの「<世界>シリーズ3作品」（上中央）はスペインの地でも優しく可愛く映りました。小さいのに、しっかりと関節が動きポーズが作れるので、多くの人の驚きを誘ってました。そして神話的なタイトルを巡って、親子で可愛い会話がよく交わされていました。



長岡哲生さんは自分の人形同期。長岡さんの今回の作品「flower」（上）は日本から作品写真を送付した段階で、早くも現地で注目されINDOLLSのウェブサイト等、色々と使用されていた。実物作品はさらに高評価を得、今回のINDOLLS賞を見事受賞される運びとなった。受賞翌日からは多くのお客さんが長岡さんのflowerに見入っていた。同期生の活躍がとても嬉しかったです。おめでとう長岡さん！



中島蓉子さんの「ブルーの服のピエロ」（上右奥）を見た人々からは「日本人は優しい顔をしたピエロを作るのね」という声を沢山いただきました。

高橋富子さんの「パートナー」の2作品（上右から2組、3組）はご夫婦のお客さんから「私たちのようね」と微笑まれ、その表情や雰囲気には何か自分達に近い共感性を感じる、とスペイン人が述べるのを聞きました。

長谷川裕子さんの「待つ子供」（上左から2点目）は、木の質感から、とにかく触れてみたくなる作品。長谷川さんの許諾を事前に得た上で、沢山のお客様に触れていただきました。世界中の人々の想いがその手から人形に伝わり、更なる命が宿った作品になったことでしょうか。原色大国のスペインで、淡いグラディエーションの色相に、憂いのある表情をした大谷博子さんの「分岐点に立つ」（上左）はなにが異文化で興味深かったようです。スペインで美術教師をしているという方が、生徒達に指導するためと言って多数の写真を撮影されてました。

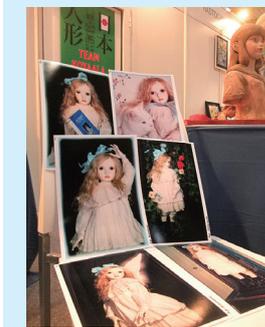


月光社の「日本の微笑み」（左）はセーラー服の女学生のテラコッタ作品。遺跡から出土されたオーパーツ感が斬新な作品だが、その表情はとても女性的で、多くの年配男性と女子学生に人気。「人形なんかまるで興味が無いよ」といって通過しがちな男性達の足を止めてました。



ヨーロッパ勢も、ロシアの作家を中心に個性的で優れた作品が目立ちました。造形、技術ともに水準が高く、作家の数が多くて驚きです！

左：ロシアの「Dollmaster」編集発行人のオルガ・ラヒナ 右：フランスを代表する創作人形作家エロイーズの作品



一次の展示で会いましょうー  
展示が叶わなかった秋山まほさんの作品 ange に対する主催者の思い：  
「秋山さんの作品は日本から送られてきた写真を見ただけで鳥肌が立ちました。私は日本から来る人形というのは伝統的な日本人形ばかりだと思っていた。しかし、皆さんの作品は今まで見たことのない個性的な作品ばかりでした。そんな中、秋山さんの作品は本当に私のお気に入り、実物を見せていただくのをとても楽しみにしていたのです。だからとてもとても哀しく、そして残念です」。代替として ange の作品写真を展示しました。作品が展示出来なかったのはとても残念でしたが、秋山さんの作品とその想いは確実に多くの人々に伝わっていました。ご本人からも今回の経験にあげずに、また挑戦したいとのコメントを頂いております。なお、ange はこれから修理されるとのことです。



写真/レポート/展示管理 西村 FELIZ (にしむら・ふえりす)

1995 ~ 中南米放浪  
2002 ~ 人形製作開始  
最近の展示・活動 東北一神さまたちの復興展-長野 出品 / 長野県小諸市読書の森  
第三回世界創作人形展 - 出品 / 丸善 OAZO 丸の内  
吉村作治の古代七つの文明展 - 協力 / 岡山 岡山市立オリエンタ美術館  
手作りベッカーリー人形展 - 協力 / 岡山 BIZEN 中南米美術館  
他、展示等多数  
※ 自分の作品もお陰さまで中南米的な色使いと形が面白いと評判を集めさせていただきました。

#### コヤアラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000円（更新時に2年分一括払いの方は3900円となります）  
年4回（1・4・7・10月）のチーム・コヤアラのニュースレターとDM便が届きます。

#### 各お申し込み・連絡先

チーム・コヤアラ  
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内  
TEL 042-395-7547 (担当 ハゼキ)  
FAX 042-395-7975  
URL <http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/>  
Email [team\\_koyaala@yahoo.co.jp](mailto:team_koyaala@yahoo.co.jp)

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)

©KOYAALA TSUSHIN 2012, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。